

千葉10周年・東京5周年記念

東京・千葉邦楽合奏団合同演奏会

平成**20**年**5**月**25**日(日)

13:30開演 (13:00開場)

すみだトリフォニー 大ホール

■主催：千葉邦楽合奏団 東京邦楽合奏団

■後援：千葉県教育委員会・台東区教育委員会・朝日新聞社・読売新聞社・毎日新聞社・東京新聞社

<千葉邦楽合奏団10周年・東京邦楽合奏団5周年記念演奏会を迎えて>

千葉邦楽合奏団・東京邦楽合奏団代表 坂田 誠山

本日はお忙しいところ千葉・東京邦楽合奏団の周年記念演奏会にご来場いただきまして、誠にありがとうございます。

「邦楽って楽しいの?」「もちろん!」をモットーに活動を始め、それぞれ定期演奏会が10回目、5回目を迎えることを記念して合同演奏会を開催することになりました。この両合奏団は、邦楽が市民生活に密着した音楽として認められるための活動として貢献できればとの思いを込めての結成でした。

今回開催のホールは1800人収容の大きなホールです。通常、家元などの大きな組織を除いて、邦楽の演奏会でこのような大ホールでの開催はごく稀な事です。我々がこの決断をしましたのは、過去の実績がこの事を可能にする状況が生まれたからでした。この演奏会を開催するに当たっては千葉・東京の合同演奏会なので、実行委員会を立ち上げて企画の段階から団員が積極的に参加して今日を迎えた訳ですが、チケットが出来上がって直ぐに満員止めの状況になってしまったのです。団員のチケット希望枚数がキャバの1800名をはるかに越える数になってしまったのです。団員でチケットの制限や調整するほどの状況でした。嬉しい悲鳴です。又この事は私が目指していた邦楽が普及し始めてきたのだとの思いでした。邦楽の普及はまず団員の熱意から始まるのだらうと思っていました。今までではなかったことでしたが、千葉邦楽合奏団を結成して10年、東京邦楽合奏団を結成して5年の歳月を経て、ようやく実現しつつある姿を見る思いで、わくわくした気持ちで本日の演奏会を迎えております。

停滞気味の邦楽界の活性化が叫ばれて久しく、その間、文科省が義務教育の指導要領改訂で子供たちに邦楽器に触れる事が義務づけられ期待は出来る状況があるものの、遅々として進んでいないのが現状です。我々は邦楽に携わっている方々よりむしろ一般の皆様へ目を向けてコンサートを企画して参りました。千葉邦楽合奏団と東京邦楽合奏団の定期演奏会は一般の方々に参加していただき活気あふれる舞台を提供し、大変盛り上がりしております。

演奏会で取り上げる曲を決める私のスタンスは、まず私が楽しめる曲が大前提にあります。団員はその曲の練習を繰り返していくうちに、徐々にその曲の魅力を理解し、自らも楽しんで練習に励む状況を作ろうと心掛けております。そこから生まれた団員自らが味わう邦楽の楽しさを、一般の皆様にも味わって欲しいとの強い気持ちが大きなエネルギーとなって、今日のこの大ホールが早々とチケットがほぼ完売となる活気溢れる状況が生まれたのでしよう。このような好回転が邦楽の普及には不可欠の要件になっているように感じられ、今後このスタンスを崩すことなく、邦楽の普及発展に尽力出来ればと念じながら、精進を重ねていく所存でおります。今後ともご支援、ご鞭撻の程よろしく申し上げます。

最後になりましたが、今回の周年演奏会には、「竹取ものがたり」で脚本をお願いいたしました西田豊子先生をはじめ、多くの方々のご協力を頂いております。皆様のご助力のお陰で今日の演奏会を迎えることが出来ました。心より深く感謝申し上げます。

＜東京・千葉邦楽合奏団周年演奏会を祝して＞

前文部科学省大臣官房国際課長、現玉川大学教育学部教授 渡辺 一雄

二つの邦楽合奏団のジョイント企画の成功を先ずもって心よりお祝い申し上げます。
和風の食事と伝統芸能に食文化、芸術文化の媒体としてのそれぞれの役割を持たせるならば、自らの文化を語る上で、多くを必要としません。
味わいのある食材、美しい食器、洗練された作法が前者に、そして後者には心躍る魅惑的なメロディー、巧みな楽器と技法が伴うならば、共に最高の国際文化交流の舞台を演じるものと思います。
さて、そういう私は、永年国際舞台で海外の人たちと公の仕事に携わって参りましたが、そこで思い起こすことといえば、はたとわが身の無芸（大食？）振りに気づき、片身の狭い思いをすることの何と多かったことかということです。
そうした私も昨年一線を退き大学で教鞭をとる傍ら、妻の紹介で偶然師事する事となった坂田誠山先生の“邦楽は楽しきかな”を座右の銘とし、“改めるに憚ること勿れ”と寸暇を惜しみ、今や琴奏者の妻との合奏を将来夢見て尺八修行に励む毎日です。
日ごろ子どもたちを含め広く国民に邦楽の楽しさを伝えようとされている先生の並々ならぬご意志には強く共鳴するものがあり、そのためにも、千葉、東京の邦楽合奏団をここまで育ててこられたこと、アマチュアの継続する意志と情熱を今回のジョイントに結晶化されたご努力に改めて拍手を送りたいと思います。
グローバル化が進展する21世紀、我が国の邦楽を世界に誇りうる国民的財産にまで飛翔させる上で、今回の合同演奏会がそうした着実な歩みを確かめる貴重な機会になるものと確信します。

＜東京・千葉邦楽合奏団周年記念合同演奏会開催に当たって＞

周年記念演奏会開催実行委員長 森 佳久山

本日はご多用にもかかわらず、ご来場いただきまして誠に有難うございます。
今日、このように大きな素晴らしホールで周年記念演奏会が開催できますことは、ご来聴いただきました皆さまはじめ、助演いただきました諸先生方、長年にわたって両合奏団を応援し、支えていただいた皆様のご支援・ご声援の賜と改めて厚く御礼申し上げます。
両合奏団の代表を務める坂田誠山氏が、一般の方々にもっと日本の伝統音楽の楽しさ、素晴らしさを伝えたいと10年前に千葉邦楽合奏団、続いて東京邦楽合奏団を立ち上げ、両合奏団とも年一回の定期演奏会を続けて参りましたが、お陰さまで両合奏団とも年を重ねる毎にリピーターの方が多く、毎回ホールが満員という盛況のもとで開催してまいりました。
全国には（アマチュアの）邦楽合奏団はいくつもあります。両合奏団の最大の特徴は、主宰者の坂田誠山氏が音楽監督・指揮者兼トップレベルの尺八演奏家であること、加えて専属作曲家石井由希子氏の存在があります。これによって、一つの演奏会で伝統音楽の素晴らしさと肩の凝らない楽しい音楽を同時にお聴きいただけることが人気の秘密かもしれません。
しかしながら、例え周年記念演奏会とはいえ、今回このような大きなホールでの開催は、（“勢い”で決めたとは言え）当初は甚だ心もとない限りでありましたが前倒しの準備と練りに練った企画、加えて長年「日本音楽集団」の副代表を務めた坂田誠山氏の豊富な経験による適切な指導によって、皆様をお迎えできることは私としても今は安堵と達成感で一杯でございます。
これからもこの演奏会を励みに坂田誠山氏のもと、団員が一意団結して邦楽の普及と発展に一層頑張っていく所存でありますので引き続きご支援・ご声援の程お願い申し上げます。
本日は誠に有難うございました。

■ プログラム&キャスト&曲目解説 ■

祭りへの序章<改訂初演>……………石井由希子作曲

指揮：坂田 誠山
 尺八独奏：須藤 香山・森 佳久山・萩原 蘊山・富田 翰山
 尺八 1：奥村 峰山・森田 天山・正道 祐山・黒武者翔山・毛利 笙山・大川礼峰山
 出沼 智山・栗子照雄山・囃子 佳山・富田 浄山・水落 公尹・渡辺 誠澄
 尺八 2：中野 兆山・伊藤 凌山・林 嵐山・功刀 幾山・安田疏詠山・村石 遥山
 千島舟静山・大場 敬三・鈴木 故山・遠藤 琇山・米山 良山・田中錦祐山
 三味線：中村 幸子・大徳 良子・神山さよ子・生村 伸子・宮田美智子・奥田恵美子
 箏独奏：樹本佳音里
 第1 箏：梅田佳予子・山口喜久子・大塚真知子・渡辺 澄子・鹿島 綾子・平林 容子
 鹿島 葵
 第2 箏：菅井 愛・中島 純子・内野 典子・岡部 節子・吉田 麗子・金田 忍
 十七絃箏：大宮 稚子・石井由希子・岡田喜代子
 打楽器：若月 宣宏

この曲は東京邦楽合奏団第2回定期演奏会のために作曲。数年前の夏、青森のねぶた祭りを見に行った。笛や太鼓のお囃子にのって、雄々しく行進する祭りの主役<ねぶた>。その勇姿は、まさに炎のように夏の夜空を焦がしていた。「ラッセラッセラッセラー」の掛け声とともに、エネルギッシュな跳ね人（ハネト）が祭り気分を最高潮に盛り上げていた。そのパワーに圧倒されつつも、見ているこちらも思わず跳ねたくなった、そんな祭りであった記憶がある。今回は三味線を加えた編成に改訂して演奏します。

(石井由希子記)

さくらの主題による学園讃歌「光り」……………石井由希子作曲

指揮・尺八独奏：坂田 誠山
 箏独奏：樹本佳音里
 尺八 1：森 佳久山・中野 兆山・林 嵐山・安田疏詠山・栗子照雄山・大川礼峰山
 富田 浄山
 尺八 2：森田 天山・富田 翰山・黒武者翔山・千島舟静山・鈴木 故山・米山 良山
 箏 1：生村 伸子・山口喜久子・宮田美智子・岡田喜代子・平林 容子
 箏 2：菅井 愛・内野 典子・吉田 麗子・中島 早依
 十七絃箏：渡辺 澄子・奥田恵美子

この曲は横浜雙葉小学校における邦楽鑑賞会のために作曲いたしました。燦々と光り輝く未来に向かって、学園生活を心から謳歌してほしい・・・との願いを込めて音を綴りました。

曲は、日本古謡「さくら」のメロディーを主題として用い、箏独奏のカデンツァから始まります。その後、合奏によりそれを変奏・展開させ、また小さなモチーフを自由に発展させつつ、曲は進みます。中間部での尺八独奏によるカデンツァの後、尺八と箏のダブルコンチェルトの形態で、即興協奏曲風に高揚させ、そして私なりの<さくら>を作る事を試みました。

(石井由希子記)

尺八独奏：坂田 誠山

匠を辞書で調べると、美しいものを作り出す技等と書かれている。尺八の奏法には洋楽器には無い奏法がたくさんある。純粋な楽音から徐々に息の音を混ぜていく音色の変化、極端には息音のみでの演奏など音色の多様性、音程を微妙に変化させる尺八音楽の独特な奏法や間など、それらを巧みに組み込んで演奏することにより、尺八音楽の表現の幅を広げている。

この曲は、尺八独特の奏法を意識し、それらを駆使して一つの事に限定することなく、前の音（演奏）から触発される音を辿り、感情の赴くままに曲を進行させるよう試みた。奏法の巧みな組み合わせ、音色の巧みな使い分け等、この曲はそれらの様々な巧み（匠）を意識し、しかも即興的な要素も多分に織り込みながら作曲した。（坂田誠山記）

いざない（改訂初演） 石井由希子作曲

指揮・尺八独奏：坂田 誠山

箏 独 奏：樹本佳音里

尺 八 1：須藤 香山・奥村 鋒山・正道 祐山・毛利 笙山・出沼 智山・図子 佳山
水落 公尹

尺 八 2：萩原 蘊山・伊藤 凌山・功刀 幾山・大場 敬三・村石 遥山・遠藤 琇山
田中錦祐山

箏 1：梅田佳予子・大塚真知子・鹿島 綾子・鹿島 葵

箏 2：中村 幸子・中島 純子・大徳 良子・岡部 節子

十七絃箏：大宮 椎子・石井由希子・神山さよ子

この曲は1993年、東京尺八合奏団の委嘱で作曲した作品です。

「いざない」とは、「誘い」の意の雅語的表現です。

曲は大きく分けて、序・急・緩・急の四つの部分から成り立っています。緩の部分に誘う尺八のカデンツァ、急の部分に誘う箏のカデンツァではソリストのすばらしさを、終焉へと高揚してゆく終結部ではアンサンブルの妙味を味わって頂ければ幸いです。

私にとってこの曲は四曲目の邦楽作品ですが、和楽器にふれればふれるほど奥の深さを痛感し、独特の雰囲気魅せられてまいりました。和楽器の持つ魅惑的な世界に、皆様をいざなうことができれば……との思いから、この題名をつけました。（石井由希子記）

歌と邦楽による「竹取ものがたり」……………西田豊子脚本 石井由希子作曲

指揮・尺八：坂田 誠山

ソプラノ：片野坂栄子

バリトン・語り：石鍋多加史

かぐや姫・鼓：麻生 花帆

箏独奏：樹本佳音里

三味線：在原富士江

尺八 1：須藤 香山・森 佳久山・奥村 峰山・中野 兆山・正道 祐山・安田疏詠山
毛利 笙山・大川礼峰山・出沼 智山・富田 浄山・凶子 佳山・米山 良山
水落 公尹

尺八 2：萩原 蘊山・森田 天山・伊藤 凌山・富田 翰山・功刀 幾山・林 嵐山
村石 遙山・鈴木 故山・大場 敬三・黒武者翔山・遠藤 山・千島舟静山
田中錦祐山・栗子照雄山

第 1 箏：梅田佳予子・山口喜久子・大塚真知子・宮田美智子・鹿島 綾子・渡辺 澄子
鹿島 葵・平林 容子

第 2 箏：菅井 愛・中村 幸子・内野 典子・中島 純子・吉田 麗子・大徳 良子
岡部 節子

十七絃箏：大宮 稚子・岡田喜代子・神山さよ子・奥田恵美子

打楽器：若月 宣宏

合唱：上野混声合唱団

合唱指揮：田尻 明規

ソプラノ：井上 恵子・大森 詢子・川嶋 春美・木津由美子・栗原 陽子・関根 玲子
高崎美恵子・永瀬いち子・福永 雅子・松井千賀子・若林三枝子

アルト：片山 成子・佐野 幸枝・椎名喜久子・寺井 育子・松崎 絢子・村田 洋子
森田 君子・吉川さよ子・吉田 輝子

テノール：有馬 宏・岩本 道雄・清家 忠顕・佐藤 雅規・中山 卓郎・沼野 博

バス：石川 文也・菊谷 正・澁川 侶章・須原 久雄・松本 賜郎・吉川 喜也

「竹取ものがたり」に期待をこめて

平安貴族のきらびやかな世界を伝える『源氏物語』にも、「物語の出てき始めのおやなる竹取」とあるように、竹取物語ははるか昔の物語。しかし、童話や絵本で、かぐや姫の物語として今でも誰にでも親しまれ、十五夜になると、ふと月を仰ぎ見て子供のころを懐かしく思い出させてくれる物語でもある。

その竹取物語が、書き下ろしの脚本と作曲でお目見えする。それも、箏、三味線、尺八、鼓の和楽器の合奏に、ソプラノ、バリトンに合唱団の西洋音楽の歌唱が加わっている。ミニオペラともいべき作品なのかもしれない。

古代と現代、西洋と日本、それらが入り混じった〈ヒュージョン（融合）〉音楽となった「竹取ものがたり」は、どんな味わいをわれわれの脳裏に残してくれるのだろうか。

「竹取ものがたり」の初舞台を視に、聴きに行く観客の一人として、膨らみ続ける期待は抑えることは出来ない。

（事務局に寄せられたEメールより）

竹取ものがたり脚本
西田豊子

オープニング

◎M1 「竹林に風吹きわたり」

さらさら さらら さらさら
さらさら さらら さらさら
きらきら きらら きらきら
きらきら きらら きらきら
さらさらさらさらきらきらきらきら
さらさらさらさらきらきらきらきら
さらら さらら さらら さらら！
きらら きらら きらら きらら！

◎M2 竹取の翁のテーマ

今は昔 今は昔
竹取の翁という者が
竹取の翁と言う者が ありました
さら さらさら 風吹き渡り
ざわ ざわざわ 竹の葉ゆれる
野山に分け入り 竹を取り
籠を編み 籠を売り 暮らします
その名を さかきの造 (みやっこ) と
さかきの造と申します

さら さらさら 風吹き渡り
ざわ ざわざわ 竹の葉ゆれる

竹の中に 竹の林に
ある日 竹取の翁は
一筋根元の光る竹を 見つけました

きら きらきら 光る竹 あり
きら きらきら 光る竹 あり

これは不思議 怪しきかな
光る竹に 近付けば 光る筒の中
美しい 小さな姫君が
眠っておりました

美しい
美しい
美しい姫君
小さな
小さな
小さな姫君 眠っておりました

何と不思議な！朝な夕な見慣れた竹の中に
…？もしや、この翁の子として、お育てせよ
と言われるか…？

翁は、小さな美しい姫をそっと抱きあげ、我
が家へ連れ帰って、妻のおうなど大切に育て
ました。不思議なことにこのあと翁が竹を取
りに行くと、

きら きらきら 光る竹 きらり
きら きらきら 光る竹 きらり

節ごとに黄金のつまった竹があり、思いもか
けない富を築くこととなりました。

さら さらさら 風吹き渡り
ざわ ざわざわ 竹の葉ゆれる

◎M3 かぐや姫のテーマ

小さな姫はすすくと育ち、なよ竹のかぐや
姫…と名付けられました。

どこから来たのだろう ここにいる
このわたし
なよ竹のかぐや姫 かぐや姫と人は
呼ぶけれど

しなやかな竹 なよ竹に抱かれて
緑ざざめく 風の歌を聞いていた わたし
生まれるという 意味も知らず
出会うという 言葉さえ知らず

光の小舟 まどろみの中
漂っていた このわたし
なよ竹のかぐや姫 かぐや姫と人は呼ぶけれど

かぐや姫は、輝くように美しい。姫が居れば
屋敷中光が満ち溢れ、翁もおうなも、姫を一
目見れば、苦しいことや腹の立つ事を忘れ、
幸せな気持ちになるのです。輝くように美し
いかぐや姫の噂はたちまちのうちに国中に広
まって…

◎M4 「会いたい 見たい お嫁に欲しい！」

会いたい 見たい お嫁に欲しい
噂の姫よ
光り輝く かぐやの姫よ
門の前から 屋敷の周り
夜も寝やらず うろつきまよう
ああ！思い描けば 心ときめき 心ざわめき
おお！ 居ても立っても いらねえ～い！

「おお、いとしの かぐやの姫よ！」

会いたい 見たい お嫁に欲しい
噂の姫よ 光り輝く かぐやの姫よ
扉に穴あけ 垣根に取り付き
昼も夜も うろつきまよう
ああ！一目だけでも 遠くからでも 背伸び
してでも
おお！ 命かけても のぞきた～い！

「おお、いとしの かぐやの姫よ！」

会いたい 見たい お嫁に欲しい
噂の姫よ 光り輝く かぐやの姫よ
会いたい 見たい お嫁に欲しい
噂の姫よ 光り輝く かぐやの姫よ

中に、恋の道の達人として知られる、五人の
貴公子がおりました。

石つくりの御子にてござる。位の高い順に、
並んでござる。

くらもちの皇子にてござる。お金持ちの、蔵
持、でござる。

右大臣安倍のみうし。王子ではないが右大臣
でござる。

大納言大伴の御行。名誉・手柄多き家柄でご

ざる

中納言いそのかみのまろたり。恋の誠は位
の高さではござらぬ。

おお、いとしの かぐやの姫よ！

しかし、かぐや姫は…

姫、どのように高貴なお方でも、女は男と、
男は女と結婚し、子を育て家を繁栄させるの
が、人の道。ごらんなさい、姫にふさわしい
高貴の方々ばかりですぞ…

姫、私達ももう七十、一日も早く良いお方と
結婚し、この爺と婆を安心させて下さらぬか

◎M5 深きこころざしを知らでは

深きこころざしを 知らでは
深きこころざしを 知らでは？

深きこころざしを
深きこころざしを 知らでは
百の訪 (おとな) い 千の誓いも
ひとときの たわむれ かりそめの恋
朝露よりも はかなく
色あせ 枯れ果て 忘れ去られましよう

姫よ、いったいこの翁にどうせよと言われる
のか？

深きこころざしを
深きこころざしを

深きこころざしを 知らでは

どなたが深いお志をお持ちか、私が見たいと
思うものを見せて下さった方のところへ参り
ますと、お伝えください。

おお、婿選びの、テストでござるな！

石作りの皇子には、天竺の国にあるという、
青く光る仏さまの石のお鉢。
くらもちの皇子には、東の海の蓬莱の山にあ
るといふ、白銀の根に黄金の茎、白い宝石の
実をつける木の一枝を。
安倍のみうしには、唐土 (もろこし) にある
という火鼠の皮衣。
大伴の大納言には、竜の首に光る五色の玉。
石上の中納言には、燕の子安貝一つ。

今まで誰一人見たこともない品々。五人の貴
公子は口を
あんぐり。
心の中では
素直にキラリだって言えよ～！
と
がっかり
しましたが、やはり
会いたい 見たい お嫁に欲しい
(お嫁に欲しい!!)

◎M6 五人の貴公子たちの 大冒険

石作りの皇子 賢い皇子よ
賢い皇子よ
天竺の国へ！と姫に伝えて
姫に伝えて
三年ばかりを 遊んで暮らし 遊んで暮らし
山奥の寺の すずけた鉢を すずけた鉢を
きんきら鐘の 袋に入れて 袋に入れて
花で飾って 差し出した！ 差し出した！

永久（とわ）の愛 深きころごしを この
鉢いっぱい！

はて、私の御鉢のはずなのに、光がありませんね。

い、いやなに あなたの美しさに 光を失ったまで

會持の皇子は 策略の人
策略の人
いぎ玉の杖を！と旅立つそぶり
旅立つそぶり
腕利き職人 密かに集め
密かに集め
本物そっくり 作らせて
作らせて
船旅よそおい 船酔い演技
船酔い演技
足元ふらふら 差し出した！
差し出した！

永久の愛 深きころごし 海原越えて只今
見参！

おや、職人の方々が、給金払えと、やってきました。
ぶ、ぶ、無礼者 ぶち壊しではないか〜！

右大臣安倍のみうし 大金持ち
大金持ち
唐の商人へ 手紙で注文
手紙で注文
大金送って 取り寄せた
取り寄せた
うるわしき瑠璃の 箱より出せば
箱より出せば
翁は喜び まことの婿と
まことに婿と
邸に呼びいれ 姫に取り次ぐ
姫に取り次ぐ

永久の愛 深きころごし 炎のごとく燃えて参上！

おや、火に焼けぬ皮衣なのに めらめらと燃えていますよ。
あち、あち、お金が お金が燃えてしまう！

大伴の大納言 勢いの人 勢いの人
家来残らず 探索に出し 探索に出し
新しき家たて 妻をも帰し 妻をも帰し
嵐の海へと 漕ぎ出したが
漕ぎ出したが
難破の果てに 打ち上げられて
打ち上げられて
竜の怒りと 恋も冷め切る 恋も冷め切る
深きころごし

ふかきころごしを 知らでは
永久の愛だ？深きころごしだ？かぐや姫なんかくそ食らえ！

石上の中納言 律儀なお人 律儀なお人
大炊寮の飯炊き小屋の 飯炊き小屋の
燕の巣めがけ 籠に乗り込み 籠に乗り込み
母さん燕が くるくるくるりん
くるくるくるりん
今だチャンスだ 子安貝よと 子安貝よと
握ったその時 まっさかさまに
まっさかさま

永久の愛だ？深きころごしだ？
命を懸けて握ったは 貝ではなくて燕の糞！
これぞまことに甲斐なきかな！

深きころごし
深きころごしを 知らでは

◎M7 許さぬぞ かぐや姫
許さぬぞ かぐやの姫 断じて 許さぬ！

大伴の大納言 石上の 中納言麻呂足
この帝の よきしもべ
朝廷（おおやけ）の臣を 辱しめ 死に至らしめたとは

許さぬ 許さぬ 許さぬ
かの者への辱しめ
この帝 この国の王
一人として 従わぬ者なき
余への辱しめ なるぞ

許さぬぞ かぐやの姫 断じて許さぬ！

石作りの皇子 會持の皇子
安倍のみうし
この帝の 親しき身内
朝廷の 臣を 辱しめ
笑いものにしたとは！

許さぬ 許さぬ 許さぬ
かの者をあざけるは
この帝 この国の王
一人として 従わぬ者なき
余をあざけるも同じ ことぞ

許さぬぞ かぐやの姫 断じて許さぬ！
許さぬぞ おごれる姫 断じて許さぬ！

たれかある！多くのおのご死なせしかぐや
どれほどの者か まかりて見てまいれ！

帝は使いの者を翁の邸へ送りましたが、姫は頑として会おうとしません。
「おのれ どこまで思いあがるか。即刻、姫を宮中に召し出せ」
帝は翁に、きさきの一人として姫を参内させれば官位を授けると、伝えました。
しかし姫は翁に。
位を頂くのがご恩返しなら、お二人のため一旦はお受けし、そののちわたくしは死んで果てましょう。
何と…翁の願いはただ姫の幸せだけ。何ゆえ

そのようなむごいことを申されるか。
むごいのは、大勢の方々を不幸に陥れたこの私です。
あの方々を思えば、昨日今日求婚された帝のもとなど、参れるはずがありません。

帝は翁の邸が山近くにある事を聞き、自ら鷹狩に出て、姫の邸を訪れました。

すると、光り満ち溢れる中に、清らかに美しく座る姫の姿がありました。

帝は思わず、逃げようとする姫の袖をとらえました。
そして、もう決してこの手は離さない、このまま御所へお連れしよう と 姫の耳元に囁いたその刹那！

◎M8 わが身消えなば
わが身 消えなば わが身 陰となりなば
その身 消えなば 御身 影となりなば
今は信じて 下さいますか？
余に何を 信ぜよと言うか？
もしも この身 この国に生まれた女ならば
もしも 御身 この国に生まれた女性ならば
帝のお力 思し召しのままに どのような女も お連れになれましょう
帝の力 思いのままに どのような姫も 従わぬ者などありはせぬ
けれどわたくしは わたくしの国に
属するもの
いいやそなたは この帝の国に 属するもの
例え帝であれ
いいや帝ゆえ

断じて 思いのままに なりはしませぬ
断じて この思いを 逃げずにおきはせぬ
ならばもはやこの身
わすれられぬ 面影
この身は影と！ 影と！ 成り果てるのみ
何と影にと？ 影と？ 影と成り果るとか
ならぬ！それはならぬ！影と死に果てる程余を嫌うなら、もはや連れ参りはせぬ。連れ参りはせぬがせめて、形見にその姿い一度、この眼に留めさせ給え。

ようやく姫は元の姿に戻り、翁は盛大な宴で帝をおもてなし申し上げました。

◎M1 「竹林のテーマ」竹林に月さやか
さらさら さらら さらさら
さらさら さらら さらさら
さらさら さらら さらさら
さらさら さらら さらさら
さらさらさらさら さらさらさらさら
さらさらさらさら さらさらさらさら
さらら さらら さらら さらら！
さらら さらら さらら さらら！

竹林に 月 さやか 竹の葉に 月のしずく
輝き こぼれて
月 さやか 竹林に 月はさやか
さらら さらら さらら さらら！

きらら きらら きらら きらら！

帝は、かぐや姫を忘れることが出来ず、四季折々の花に託して歌を送り、姫もご返事を送り、互いに慰めあう日々が続きました。

竹林に 月 さやか
竹の葉に 月のしずく 輝き こぼれて
月 さやか 竹林に 月はさやか

きらら きらら きらら きらら！
きらら きらら きらら きらら！

ある年の春の初め、かぐや姫は月の美しい夜、月を見上げて物思いに沈むようになりました。夏が来る頃には嘆き悲しむ様子がただ事とも思えません。涙を尋ねる翁に。
いいえ嘆いてなどおりません。月見ればしみじみ、世の中が心細く思われるだけ。

そう言いながら、まるで月に魅入られたかのよう。人の見ていない時には月を見上げ涙を流す有様です。そして七月も十五日。常よりも一層切なく物思いに沈む姫に、翁は強く申しました。「月をご覧になるのはおやめなさい。月を見るから、そのように思い悩むのでごさいましょう」

ああ どうして
どうして あの月を見ずに いられましょう

姫よ月を見るのはおやめなさい

私は 月の都の 月の都の 者なのです

何と？いま何とおおせられた？

私は 月の国の！ 月の都から 来た者なのです
ほんの片時ばかり この国へと 参りました
かの国の 父母（ちちはは）のことも 思い
出さずに この国に 親しみすごした 日々
でした

月の都？ 月の都のお方だと？

けれど 月の国へ！月の都へと 戻らねばなりません 次の満月の夜 かの国より 迎えが来ます
お二人と 過ごせる日々も もう僅かしかない月の国へ 旅立つその日が 来るのです
ああ どうして
どうして あの月を見ずに いられましょう
あの月を見ずに あの月を見ずに

◎M10 「月の人の眼つかみつぶさん」前奏

伝え聞いた帝は、近衛の少将高野の大国に命じ、かの満月のその夜、宮廷警護の兵士二千人を、翁の屋敷へと遣わしました。

広大な翁の屋敷を囲み、塀の上に千人！
おう！
屋根の上にも千人！
おう！
母屋の中は侍女たちが守り固め、

おう！

おうなは奥の部屋でかぐや姫を抱きしめ、翁は空を見上げて叫びました。

◎M10 「いざやいざ」

いざや いざ いざ
月の国の遣い お迎えの者ども
来るならば 来よ！

いいえ どんなに 堅く閉ざしても
とびらはたちまちに 開きましよう
立ち向かうことなど 出来はしません

いざや いざ いざ
月の国の遣い お迎えの者ども
来るならば 来よ！

たとえ 鳥の羽一片（ひとひら）
空を飛ぶもの たちまち
近衛の 武士（もののふ）ら
弓にて 射殺し
さらしものにして くりようぞ

いいえ どんなに 守り固めても
あの国の人とは 戦えません
弓矢で射ることも 出来はしません

いざや いざ いざ
月の国の遣い お迎えの者ども
来るならば 来よ！
たとえ 老いたりこの翁
空より来る者 たちまち
この指 この爪で
眼（まなこ）つかみつぶし
引きずりおとして くりようぞ
いざ！

◎M11 「月は真昼よりも 明るく輝き」

しんしん しんしん
満月の夜は 静かに更け行く
りんりん りんりん
草むらにすだく 虫の音湧えて
じりじり じりじり
こぶしを握って 月見上げれば
どくどく どくどく
胸の鼓動は 怪しく高鳴る

おお おお！

おお！

見よ 見よ 見よ あの月を！
あの月を！

月は 真昼よりも 明るく輝き

真昼よりも 明るく輝き

天の彼方より 月の国の人 降り来たる

月の国の人 降り来たる

武士たちは 戦う心 失せて

戦う心 失せて

弓矢持つ手 痺れ 驚き呆れて 立ちすくむ
驚き呆れて 立ちすくむ

はらりと おうなの手 ほどけて
おうなの手 ほどけて
部屋の戸 格子戸 音も無く 開き
音も無く 開き
姫の肩 天の羽衣 さしかけられた
その時！

さしかけられた その時！

お待ち下さい！

空を翔る この羽衣 着て
地上の心 忘れてしまう その前に
地上の父上 翁 翁の 地上の母上
おうなどの
ああ どうぞ
夜空に月の 昇る夜は 月を私と 思し召せ
お二人を 残して去る悲しみは
行く空からも 落ちゆく心地 落ちゆく心地
です

今ひとつ この文 あの方に
私のため あまたの武士 遣われ給う
地上の帝 あのお方 文を交わした 地上の
帝へ

ああ どうぞ
夜空に月の 昇る夜は 月を私と 思し召せ
羽衣を着て 今にして知るこの思い
君を哀れと 初めて知る心地 初めて知る心
地です

しんしん しんしん
満月の夜は 静かに更け行く
りんりん りんりん
草むらにすだく 虫の音湧えて
きらきら きらきら
天の羽衣 月光に映え
ゆらゆら ゆらゆら
かぐやの姫は 月へと昇る

しんしん しんしん
りんりん りんりん
きらきら きらきら
ゆらゆら ゆらゆら

◎M1 「竹林のテーマ」竹林に月さやか

さらさら きらら きらきら
さらさら きらら きらきら

さらさら きらら きらきら
さらさら きらら きらきら

さらさらさらさら きらきらきらきら
さらさらさらさら きらきらきらきら

さらら さらら さらら さらら！
きらら きらら きらら きらら！

竹林に 月 さやか
竹の葉に 月のしずく 輝き こぼれて
月 さやか 竹林に 月はさやか

さらら さらら さらら さらら！
きらら きらら きらら さらら！

竹林に 月 さやか
竹の葉に 月のしずく 輝き こぼれて
月 さやか 竹林に 月はさやか

さらら さらら さらら さらら！
きらら きらら きらら さらら！

～終演～

竹取ものがたり作曲ノート

石井由希子

千葉10周年・東京5周年を記念する合同演奏会の記念曲に何を選ぶのかと両合奏団員で検討しはじめたのはちょうど一年前でした。

まず合奏団員は、誰にでも親しまれている「昔話」を望む人が多く、脚本の西田先生と団員との懇談会では、どの「昔話」が記念曲にふさわしいだろうか、などなど合同演奏会への強い思い入れに触れて胸が熱くなりました。

私も大編成でしかも長時間に及ぶ曲を手がけられるという未知への挑戦に、大きな喜びと重責を感じながら期待が膨らむばかりでした。

そして、「竹取物語」の題材が決定してからは、脚本の完成を待つ楽しみと、「竹取物語」が語る平安時代の人々の考え方や暮らしぶりを想像しながら、どんな曲にしていこうかと思考を繰り返していた日々でもありました。やがて出来上がってきた西田先生の脚本の歌や語りには、やさしい言葉ながらも深い意味が込められており、遠くの海原から波が押し寄せてくるがごとく私に迫ってきて、「竹取物語」のイメージが次々と湧き上がり膨らんできました。

ソプラノ、バリトンの独唱、合唱団の特質や邦楽器の特性を心に描きながら、「竹取ものがたり」を音の世界で表すことに浸りきっていました。

はるか昔の平安時代、「竹取物語」はどんな気持ちで語られていたのでしょうか、その次の時代は、また次の時代、そして現代までゆうに千年以上も伝えられているこのお話に、いかなる味わいを加えたら現代に生きる「竹取物語」として甦ってくれるのでしょうか、とわくわくした気持ちを最後まで持ち続けて作曲を完成したのです。

子供から大人まで幅広い人々を対象に作曲を心がけましたので音楽的にも分かりやすく、さらにコミカルな部分やあふれる情感を皆様にお伝えすることが出来るのではないのでしょうか。

出来上がった曲を助演者のお力や団員の練習の積み重ね、さらに演出のお陰で世界初演という舞台が大きく花開くこととなりました。

脚本家の思い描く「竹取」、作曲者の描く「竹取」、演奏者の描く「竹取」、それぞれはニュアンスに差があるのは当然のことと思います。それと同じように、「竹取」をお聴きいただく観客の皆様もそれぞれの「竹取」を描かれることでしょう。皆様のご感想をお聞きし、「竹取ものがたり」の再演を願っておりますし、また他の題材での曲も生み出していきたいという思いに駆られております。

音楽の力 物語の力

西田 豊子

ご存知のように「竹取物語」は、かな文字で書かれたわが国最古の物語です。

竹取の翁が竹の中に見つけたかぐや姫は、実は月の世界の人。群がる貴公子たちの求婚を無理難題でかわして月へ帰る設定には、平安時代の貴族や知識人に好まれた「神仙思想」の影響が見られ、俗世的な幸福追求への批判がこめられている、とも言われます。

月への憧れと離別の悲哀に彩られるこの物語は、時を越えて愛され、長沢勝俊氏作曲の邦楽「竹取物語」や加藤道夫作演劇「なよたけ」など、多くの名作の素材となっています。

さて、その竹取物語。このたびの脚本化の糸口を探し原作を読み返していた時、私はふと、奇妙な既視感に捉われました。それは、よく知られた貴公子たちの求婚エピソードの後、姫が月へ昇天する前まで。絵本や抄訳では何故か割愛されている、帝とかぐや姫の恋のエピソードです。

- 姫の傲慢を怒った帝が翁に、官位と引き換えに姫を参内させよと命じて…失敗！
- 帝はなお諦めきれず狩を装って姫を訪れ恋に落ちるが、姫は命をかけてもと…拒絶！
- 手紙のやり取りが続き、姫は月への帰還の時初めて、帝を愛しむ気持ちに…気付く！

このくだりで私は思わず、声に出してこう叫んだ気がします。「帝の失恋？恋人に意思がある事も知らない、パソコン青年のジレンマと同じ?!」それは、帝とかぐや姫の不器用な恋が、便利さや豊かさや引き換えに人間的な感性が萎えていく現代と重なるゆえに、妙な親しささえ伴う、不思議な既視感でありました。

そう思うと竹取の物語が急に身近になり、自分の心に不器用だった帝や姫のつづやぎがそのまま詞になり始めて、脚本化の方向性が定まったのでした。

そう言いつつも作詞と脚本が遅れ、作曲の石井由希子さんには大変なご苦勞をおかけしました。しかし、4月末に初めてリハーサルに伺い、大編成の箏と尺八演奏と歌がダイナミックに響きあう、変化に富んで美しい数々の曲に触れることが出来ました。風のように自在に歌う尺八。さざめく光のように艶やかに歌う箏。三味線。鼓。太鼓。その音色は、はるかな時を超え祖先たちから受け継がれてきた音楽の力と物語の力を、目覚めさせ引き出してくれるかのような、懐かしさと力強さに溢れていました。

千葉及び東京邦楽合奏団の、ますますのご活躍とご発展をお祈り申し上げます。

■プロフィール■

坂田誠山 (音楽監督・指揮・尺八)



神野生山・人間国宝島原帆山両氏に尺八を師事。NHK邦楽技能者育成会12期卒。1969年にブルガリアにおける世界民族音楽コンクールで銅賞受賞。71年～97年迄日本音楽集団に在籍し、副代表を務め、国内各地のほか、カーネギーホールなど世界各地でのコンサートのみならず、81年ライブチャピ・ゲバントハウス

オーケストラと三木稔作曲《急の曲》世界初演、94年ニューヨークフィルとアメリカ初演に貢献。又85年セントルイスオペラ劇場の三木オペラ《じょうり》世界初演に尺八ソリストとして参加。92年にはベルリン芸術大学主催による尺八リサイタルを開催、95年にはエストニアの招きで「フェスティバル＜オリエント95＞」にメインゲストとして参加。他にも多くの海外公演を行い好評を得ている。

又国内では、読売日本交響楽団等多くのオーケストラとの共演や、サントリーホールでヨーヨー・マと共演する等、伝統楽器のみならず洋楽器との共演も数多い。98年『オーラJ』を結成、現在はその代表を務めながら、その運営と独自性確立に全精力を注いでいる。

片野坂栄子 (ソプラノ)



武蔵野音大在学中、オーストリア政府留学生としてウィーン国立音楽アカデミーに学び、首席で卒業。

1964年ウィーン国際オペラコンクール第3位。1965年バルセロナにてフランシスコ・ヴィナス国際声楽コンクール第1位優勝。賞としてスペイン国内15ヶ所でのリサイタル開催。またビルバオで開かれた国際音楽祭にソリストとして招かれフォーレ「レクイエム」、ヘンデル「ソロモン」、ブラームス「ドイツ・レクイエム」を歌う。以来バースタイン、マタチッチ、ミュンヒンガー、フルニエなど著名な指揮者と共にウィーン・フィル、N響、ハンブルク響などとソリストとして共演。中でもウィーン楽友協会主催ウィーン・フィル定期公演のオルフ「カルミナ・ブラーナ」(ワルター・ベッラー指揮、楽友協会ホールにて)でソプラノ・ソリストとして出演したことは特筆される。

1974年よりオペラ歌手としてドイツパッサウ市立歌劇場、ヒルデスハイム歌劇場で第1ソリストとして専属契約、またデュッセルドルフ歌劇場、ミュンヘン国立ゲルトナー歌劇場などヨーロッパの複数の歌劇場と客演契約を結ぶ。1977年ミュンヘンでの「蝶々夫人」のプレミエでは絶賛を博し「黄金のバラ賞」を受賞。

1974年よりオペラ歌手としてドイツパッサウ市立歌劇場、ヒルデスハイム歌劇場で第1ソリストとして専属契約、またデュッセルドルフ歌劇場、ミュンヘン国立ゲルトナー歌劇場などヨーロッパの複数の歌劇場と客演契約を結ぶ。1977年ミュンヘンでの「蝶々夫人」のプレミエでは絶賛を博し「黄金のバラ賞」を受賞。

1985年帰国後、フェリス女学院大学非常勤講師を歴任し、大分県立芸術文化短期大学教授として後進の指導に当たりながら演奏活動を続けてきた。現在大分県芸術文化短期大学名誉教授。

石鍋多加史 (バリトン)



歌手、俳優としてミュージカル、オペラ、語り、演劇など舞台芸術の他、映画、テレビ等のメディアにおいても幅広く活動。主な出演作品は「ラ・マンチャの男」「屋根の上のヴァイリン弾き」「フィガロの結婚」「ヘンゼルとグレーテル」「ザ・ウインズ・オブ・ゴッド」「ペロ出しチョンマ」(三木稔作曲)等。

1998年「日米野球開会式・君が代独唱」(東京ドーム)2003年からライブワークとして「ペロ出しチョンマ」をもって全国出前語りを展開中。タイ国の恵まれない子供たちのために歌でボランティア活動を展開。

現在、札幌室内歌劇場会員、二期会会員、日本俳優連合会員、演劇倶楽部「座」座員、NPO法人「世界のともだち」会員

麻生 花帆 (かくや姫・鼓)



東京藝術大学大学院後期博士課程音楽学部音楽研究科邦楽囃子専攻修了

邦楽囃子を含め三味線音楽系統で初の博士号取得

邦楽囃子を藤舎呂船師に師事(藤舎花帆)、日本舞踊を松本幸四郎丈に師事し(松本幸妃)師範を頂く。

学部在学中に安宅賞を受賞し、サントリーホール主催、デビューコンサート「レインボー21」に出演。NHK教育テレビ「いろ

には邦楽」「音楽のちから」等出演。麻生花帆として、芸能活動も行い、「春琴」(サイモン・マクバーニー 演出)、「写楽考」(マキノノゾミ 演出)、「三越美術部百年」、「LOHAS CLASSIC CONCERT」(坂本龍一総合プロデュース)等出演。

樹本佳音里 (十三絃箏・新箏)



幼少より母藤井清美(生田流正絃社大師範、さわらび会主宰、我孫子市在住)に箏の手ほどきを受ける。

12歳より野村正峰、野村祐子各師に師事。15歳より金津千重子師に師事。1982年、名古屋市親善使節団として野村正峰師とともに、オーストラリア公演に参加。89年、東京芸術大学音楽学部邦楽科卒業。在学中に、上木康江、矢崎明子、砂崎

知子、芦垣美穂各師に師事。89、90、91年「同級生8人によるコンサート」を行う。91年NHK邦楽技能者育成会37期卒業。NHK邦楽オーディション合格。96年、賢順記念全国箏曲コンクールにおいて大賞「賢順賞」を受賞。99年千葉ドルチェホールにて海老原邦江の世界開催。日暮里和音にてライブ開催。2000年日暮里サニーホールにて樹本佳音里リサイタル開催。千葉邦楽合奏団とともにイタリア親善公演参加。現在、生田流正絃社大師範。森の会会員。

さわらび会副会長。我孫子市三曲協会会員。

現在、札幌室内歌劇場会員、二期会会員、日本俳優連合会員、演劇倶楽部「座」座員、NPO法人「世界のともだち」会員

在原富士江（三味線）



山田流萩岡派箏を幼少より稽古。NHK教育テレビ「三味線のおけいこ」生徒で一年間出演の後、菊岡裕晃氏に長唄・長唄三味線を師事。1989年東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業（芸大「安宅賞」受賞）1990年皇后陛下主催「音楽大学卒業生新人演奏会」（於赤坂御所）に芸大代表として参加。NHK新人オーディション合格。1991年同大学院修士課程修了。NHKオーディション合格。1992年長唄「東音会」同人・「日本音楽集団」入団、定期演奏会・各地コンサートホール・学校他演奏活動開始（「日本音楽集団新人賞」受賞）

最近の主な活動は、ライフワークとして、演奏者・音楽教師経験を活かした指導者講習やT.T協力、子どもと現場の二ーズに合わせた邦楽体験活動等に微力ながら役立ちたいと考えています。

若月宣宏（打楽器）



作陽音楽大学打楽器課卒業。国立劇場養成課鳴物研修修了。中国北京中央音楽学院留学。歌舞伎・京劇の打楽器を膾炙。今春、自著歌舞伎鳴物論「ここだけのはやし」を発刊。

田尻明規（合唱指揮）



埼玉大学卒業、武蔵野音楽大学修了。ピアノを石渡日出男、野辺地勝久、指揮を甲斐正雄の各氏に師事。音楽教諭として大宮北高校、埼玉県立大宮高校、同浦和第一女子高校の3校を歴任。大宮高校および浦和一女の音楽部を指揮してNHK学校音楽コンクール全国大会および全日本合唱コンクール全国大会に、また、クール・ヴァン・ヴェールを指揮して同全国大会に出場、それぞれ金賞、銀賞および銅賞を受賞した。1995年、浦和一女およびクール・ヴァン・ヴェールとともに、ウィーンで開催された世界青少年音楽祭に出場し、大賞を受賞する。現在、東京レディーズ・アンサンブルの他に、上野混声合唱団、上野男声合唱団、クール・ヴァン・ヴェール、コーラスせきれい、ピアチエーレ、女声合唱団「彩花」の指揮者を務めている。日本合唱指揮者協会会員、埼玉県音楽家協会会長、埼玉県合唱連盟顧問。1996年に下総皖一音楽賞を受賞。

上野混声合唱団（合唱）

1954（昭和29）年に「コーラスたけくらべ」として発足して、創立53年を迎える。1962（昭和37）年に「根岸混声合唱団」と改称。1996（平成8）年、7代目指揮者として田尻明規（たじりあきみ）先生をお迎えし、「上野混声合唱団」と改称して現在に至る。合唱の楽しさや喜びを先生の指揮から感じ取りながら、質の高い音創りを

目指している。定例の台東区合唱祭、2年おきの定演の他に、地域の文化活動にも積極的に参加し音楽の幅を広げる事に務めている。



西田豊子（脚本）



劇作家・演出家。

主に児童青少年演劇の分野で、数多くの劇作及び構成・演出作品を発表、音楽関係でもオペレッタや音楽劇の脚本・作詞を手がけ、子どものための新作狂言脚本や、ロシア・オーストラリア・韓国など海外での劇作・演出経験も豊富です。また、日本では数少ないドラマ教育・コミュニケーションの実践家として、学校

での授業や公立文化施設による参加型舞台芸術事業の指導に当たって来ました。

現在、NPO法人アートインAsibina理事長。玉川大学芸術学部非常勤講師。日本劇作家協会会員。

石井由希子（作曲）



千葉県出身。幼時期よりピアノ、作曲、箏曲を学ぶ。作曲を牛腸征司氏に、指揮法を甲斐正雄氏に師事。90年武蔵野音楽大学作曲学科卒業。92年第3回「箏・創作フェア」作曲コンクールにて最優秀賞・朝日新聞社賞受賞。95年「世界ホルンフェスティバル in やまがた」ファンフェアー募集において、第1位特選を受賞。2000年 国立劇場作曲コンクールにて入選。現在、日本音楽著作権協会会員、日本作曲家協議会会員。

主な邦楽関係の作品

○尺八四重奏曲「春愁」 ○尺八・箏二重奏曲「碧浪の譜」○尺八・箏コンチェルト「いぎない」 ○尺八・二十絃箏と吹奏楽による協奏曲「SOMEWHERE」（玉村町文化振興財団委嘱作品） ○尺八・箏合奏曲「祝典序曲」○浦和の舟唄 一尺八・箏・三絃・十七絃の為の一 ○尺八とシンセサイザーによる「子守歌特選集」 作編曲。その他多数。

千葉邦楽合奏団・東京邦楽合奏団

千葉邦楽合奏団は坂田誠山が1996年に居を東京から千葉に移したのを期に、当時日本尺八連盟千葉県支部長であった須藤謙山氏の肝いりで連盟会員有志5名の参加のもと会合を重ね結成されました。移転の際、自宅に100人収容のドルチェホールを造り、練習場所の拠点が出来たことも合奏団結成の大きなきっかけともなりました。又、幸いなことに自宅にホールを造った事が新聞(朝日、読売、毎日、千葉各新聞社)の千葉版に大きく取り上げられ、このホールを造った主旨などが紹介された中に、合奏団員募集も含まれて報道されたのが大きな力となり、直ぐに20数名ほどの応募があり希望も新たに揚々と船出いたしました。

合奏団は「邦楽って楽しいの?」「もちろん!」のモットーのもと、月4回の練習を重ね、年1回の定期演奏会を大きな目標として、和気藹々の中、切磋琢磨しております。邦楽界の沈滞化は、一定の評価は出来るものの確立した縦割りの社会がもたらす弊害も要因ではないかとの思いから、横のつながりを深め、お互いが刺激し合い、競争の論理を旨く働かせることが活性化を図る上でも大きな要素として必要なことと感じ、このことが東京尺八合奏団の結成を皮切りに、続けて千葉、東京邦楽合奏団の結成へと繋がっております。

千葉邦楽合奏団が活動を始め3回目の定期演奏会を迎える前に、交友関係にあった某パイプオルガン奏者の方からイタリア公演の話が持ち上がり、その公演を受ける形でパイプオルガンとの共演を決定し、発表の場として1300人収容の習志野文化ホールが候補に挙がりました。我々としては4~500人が精一杯ではないかと思っていたところに大ホールは少し荷が重いのと思われたが、1、2回と開催した定期演奏会の聴衆の雰囲気、今までと違う熱気のようなものを感じたので、清水の舞台から飛び降りたつもりで決行しようという事になりました。蓋を開けてみると1100人のお客様でほぼ満員の状態でした。この思い切って実行したことが成功を収めたことで、合奏団の活動に益々拍車掛かり、邦楽普及にはこのようなグループの存在が増えることが不可欠ではないかとの結論から、姉妹合奏団として千葉邦楽合奏団と同じポリシーで活動する東京邦楽合奏団の結成に踏み切りました。

東京邦楽合奏団は2003年当時、千葉邦楽合奏団の団員として東京、埼玉、神奈川から千葉まで練習のたびに遠路はるばる通って来られた方の中で、今回周年記念演奏会の実行委員長を務めている森佳久山氏呼びかけ人の中心となり、千葉邦楽合奏団からも数名抜け、新たに東京近郊の方を加えて結成されました。千葉は昨年が10回目でしたが、東京が今年で5回目を迎えるのに併せて、昨年の定期演奏会をお休みし、今年、千葉10周年、東京5周年の記念合同演奏会を開催することにいたしました。

千葉邦楽合奏団出演メンバー

伊藤 凌山(尺八) 梅田佳予子(箏)
遠藤 琇山(尺八) 大塚真知子(箏)
大場 敬三(尺八) 大宮 椎子(十七絃箏)
奥村 鋒山(尺八) 岡部 節子(箏)
功刀 幾山(尺八) 鹿島 葵(箏)
正道 祐山(尺八) 鹿島 綾子(箏)
須藤 香山(尺八) 神山さよ子(十七絃箏・三絃)
田中錦祐山(尺八) 大徳 良子(箏・三絃)
凶子 佳山(尺八) 中島 純子(箏)
出沼 智山(尺八) 中村 幸子(箏・三絃)
萩原 蘊山(尺八)
水落 公尹(尺八)
村石 遙山(尺八)
毛利 笙山(尺八)

東京邦楽合奏団出演メンバー

大川礼峰山(尺八) 生村 伸子(箏・三絃)
栗子照雄山(尺八) 内野 典子(箏)
黒武者翔山(尺八) 岡田喜代子(箏・十七絃箏)
鈴木 故山(尺八) 奥田恵美子(十七絃箏・三絃)
千島舟静山(尺八) 金田 忍(箏)
富田 翰山(尺八) 菅井 愛(箏)
富田 浄山(尺八) 中島 早依(箏)
中野 兆山(尺八) 平林 容子(箏)
林 嵐山(尺八) 宮田美智子(箏・三絃)
森 佳久山(尺八) 山口喜久子(箏)
森田 天山(尺八) 吉田 麗子(箏)
安田疏詠山(尺八) 渡辺 澄子(箏・十七絃箏)
米山 良山(尺八)
渡辺 誠澄(尺八)

(あいうえお順)

＜千葉邦楽合奏団創立から現在までの足跡＞

- 1997年10月 1日 メンバー5名で発足。
- 1998年 2月 1日 骨髄バンク推進チャリティーコンサート出演
- 1998年10月 4日 第1回定期演奏会 於：千葉県教育会館
- 1998年11月12日 千葉市立扇田小学校音楽鑑賞会
- 1999年 1月27日 千葉市保育協議会定例会にて演奏
- 1999年 2月14日 千葉テレビ「ザ・サンデー千葉市」で放映
- 1999年 4月26日 雅山閣 千葉後援会発足記念パーティーにて祝賀演奏
- 1999年10月 2日 千葉邦楽合奏団第2回定期演奏会
- 2000年 1月25日 <在宅療養者のつどい>於：習志野保健所
- 2000年 2月21日 <7Daysサウンドツアーコンサートinぱ・る・る>
- 2000年 2月26、27日 <くびきの邦楽アンサンブルとの交流会・講習会・演奏会>於：新潟
- 2000年 6月25日 <日本尺八連盟千葉支部演奏会>於：千葉県教育会館ホール
- 2000年 7月20日 <世田谷文化祭・三曲ゆかた会第42回演奏会>於：世田谷区民会館
- 2000年8月26、27日<くびきの邦楽アンサンブルとの交流会・講習会>於：ドルチェホール
- 2000年 9月 9日 ~10日 <夏合宿>於：本埜ふれあいプラザ
- 2000年10月 9日 千葉邦楽合奏団第3回定期演奏会 於：習志野文化ホール
- 2000年10月16日 ~22日 第1回海外公演<イタリア・ミラノ> ミラノ総領事館主催
- 2000年11月27日 千葉市立稲毛小学校公演
- 2001年 1月20日 船橋市立田喜野井小学校公演
- 2001年 3月11日 <日本エアロピクスセンター・梅祭り>にて演奏
- 2001年 6月24日 <日本尺八連盟千葉県支部演奏会> 於：千葉県教育会館ホール
- 2001年 7月 8日 <轟町子ども会・とどろきファミリーコンサート> 於：千葉市立轟町小学校
- 2001年10月 6日 千葉邦楽合奏団第4回定期演奏会 於：ぱ・る・るホール
- 2001年10月20日 千葉市立弥生小学校公演
- 2001年12月15日 千葉市立千草台中学校公演
- 2002年 2月 2日 船橋市立田喜野井小学校公演
- 2002年 6月30日 <日本尺八連盟千葉支部25周年記念演奏会>於：千葉県教育会館ホール
- 2002年 9月28日 千葉邦楽合奏団第5回記念演奏会 於：ぱ・る・るホール
- 2002年11月 2日 ~4日 <第17回国民文化祭・夢フェスタとっとり>出演 於：米子市公会堂
- 2002年11月16日 千葉市立長作小学校公演
- 2002年11月16日 <JAPAN-KOREA市民交流フェスティバル> 於：幕張メッセ
- 2002年11月29日 千葉市立千草台小学校公演
- 2002年11月29日 敬愛学園高等学校公演
- 2002年12月19日 <巨人軍二岡選手の激励会>にて演奏 於：ロイヤルパークホテル
- 2003年 2月20日 船橋市立田喜野井小学校公演
- 2003年 6月15日 <日本尺八連盟千葉支部演奏会>於：千葉県教育会館ホール
- 2003年 8月 8日 ~11日 第2回海外公演<ロシア・ハバロフスク>
21世紀日本・ロシア交流フェスティバル記念事業

- 2003年10月12日 千葉邦楽合奏団第6回定期演奏会 於：ば・る・るホール
- 2003年10月25日 北砂小学校公演
- 2003年11月1日 薬園台公民館文化祭
- 2003年11月15日 「土気あすみが丘プラザ」邦楽コンサート
- 2004年10月23日 千葉邦楽合奏団第7回定期演奏会 於：ば・る・るホール
- 2004年11月7日 薬園台公民館文化祭
- 2005年2月3日 文化庁企画「芸術家等派遣事業」千葉市立緑町小学校公演
- 2005年7月3日 日本尺八連盟千葉県支部演奏会出演
- 2005年7月24日 世田谷三曲協会ゆかた会出演
- 2005年9月18日 千葉邦楽合奏団第8回定期演奏会 於：ば・る・るホール
- 2005年10月28日 ケアセンター「そよ風」慰労演奏
- 2005年11月25日 「千葉市立千草台小学校40周年記念公演」
- 2005年11月5日 「薬園台公民館文化祭」
- 2006年2月26日 「小仲台公民館公演」
- 2006年3月18日 「我孫子市立湖北小学校公演」
- 2006年6月11日 「日本尺八連盟千葉県支部演奏会
- 2006年6月23日 「長野県安曇野・堀金小学校公演」
- 2006年8月18日 ～20日 八ヶ岳「北杜国際音楽祭」全国現代邦楽コンベンション2006に参加
- 2006年10月29日 千葉邦楽合奏団第9回定期演奏会 於：ば・る・るホール
- 2006年12月8日 ケアセンター「そよ風」慰労演奏
- 2007年6月8日 第4回東京邦楽合奏団定演に友情出演 於：日本橋劇場
- 2007年7月1日 日本尺八連盟千葉県支部30回記念 「房総の詩」記念演奏
- 2007年8月24日 ～26日 八ヶ岳「北杜国際音楽祭」全国現代邦楽コンベンション2007に参加
- 2007年10月19日 ケアセンター「そよ風」慰労演奏
- 2007年11月3日 薬園台公民館文化祭出演
- <東京邦楽合奏団創立から現在までの足跡>
- 2003年4月活動を始める
- 2003年8月8日 ～12日 21世紀日本ロシア交流フェスティバル参加 於：ハバロフスク
- 2003年10月25日 北砂小学校公演
- 2004年6月21日 第1回定期演奏会 於：日本橋劇場
- 2005年2月8日 横浜雙葉小学校公演
- 2005年6月3日 第2回定期演奏会 於：日本橋劇場
- 2005年7月24日 世田谷三曲協会ゆかた会出演
- 2006年6月2日 第3回定期演奏会 於：日本橋劇場
- 2006年6月23日 長野県安曇野堀金小学校創立120周年記念公演
- 2006年8月18日 ～20日 八ヶ岳「北杜国際音楽祭」全国現代邦楽コンベンション2006に参加
- 2007年6月8日 第4回定期演奏会 於：日本橋劇場
- 2006年10月29日 千葉邦楽合奏団第9回定期演奏会 友情出演 於：ば・る・るホール
- 2007年8月24日 ～26日 八ヶ岳「北杜国際音楽祭」全国現代邦楽コンベンション2007に参加



千葉邦楽合奏団第9回定期演奏会における合同演奏

☆☆千葉邦楽合奏団・東京邦楽合奏団々員募集☆☆

この合奏団は『邦楽で楽しい音楽を皆様に届けよう!』との思いで各12年、6年の歳月を経て、今日このような盛大なコンサートを開催することが出来ました。ご来場の皆様のご支援があればこそその実現ですが、我々の日頃の成果の現れでもありましょう。邦楽の活性化は、標榜するだけでは実現しません。日本全国津々浦々、音楽を提供する側も提供される側も、コンサート会場に足を運んで本当に良かった、楽しかったと生活に潤い、安らぎの持てる環境を提供出来ることによって実現するものだと思っております。我々はそのモデル合奏団との自負、自覚を持ちながら活動しています。

演奏家冥利は演奏後の暖かく、しかも勢いのある拍手を頂いたときの感動に尽きます。「この拍手は滅多に体験できない、とても熱っぽい拍手ですね」と助演していただいたある高名な演奏家のお言葉、このような拍手をあなたも味わってみませんか。そして鋭気を得て、邦楽活性化の担い手として活動してみませんか。

参加資格は特には問いません。現在16才~7才まで幅広く参加されてます。特別に上手な人たちだけの集まりでもありません。月4回の練習が今日の演奏会の成果をもたらしています。

奮っての参加をお待ちしてます!

詳しくは<http://www.chiba-en.com/>、千葉邦楽合奏団・東京邦楽合奏団事務局まで!

『神奈川邦楽合奏団』団員募集中

(代表・音楽監督 坂田 誠山 専属作曲家 石井 由希子)

『楽しい音楽を!』をモットーに活動いたします。

千葉・東京に続き神奈川邦楽合奏団の準備が整い、7月に発足式を行います。練習場所は沢渡三ツ沢地域ケアプラザ(横浜市神奈川区沢渡56-1)、練習日は日曜日、月2回及び木曜日、月2回の計月4回行います。

邦楽の楽しさを全国に広めたいと思っております!

詳しくは<http://www.chiba-en.com/>、千葉邦楽合奏団事務局まで!

舞台監督:大門 昭一

楽器担当:五味 楽器

チラシ・プログラム表紙デザイン:坂下 実